

# 三重県

A map of Mie Prefecture, Japan, showing various historical sites. The sites are marked with blue location pins and labeled with yellow boxes containing their names in Japanese. The map includes geographical features like the Kii Peninsula, the Ise Bay, and major roads. The labels are: 伊賀上野城 (Iga-Ueno Castle), 津城 (Tsu Castle), 多気北畠氏城館 (Takigaharashiro Family Castle), 松阪城 (Matsuzaka Castle), 田丸城 (Tamaru Castle), 赤木城 (Akashi Castle), and 奈良県 (Nara Prefecture).

伊賀上野  
城

津城

多気北畠氏城館

松阪城

田丸城

奈良県

赤木城

# 47 伊賀上野城

---続 100名城---  
2019.12.12



別名: 白鳳城

外觀の白い三層の美しい城郭から呼ばれている。

FB-040

昨年の奈良巡りの帰り時、JR奈良線木津駅で関西線に乗り換えてやってきました。

上野台地の北部にある標高184mほどの丘に建てられた平山城です。城と城下町を取り巻く要害の地にあります。

伊賀と云えば、甲賀(滋賀県)も連想する忍者の里です。(両地域の直線距離は20km超程度)---伊賀上野駅で伊賀鉄道に乗り換えますが、その電車・車内は忍者一色でした。

城を含めた近隣一帯は上野公園として整備されており、松尾芭蕉を祀る俳聖殿および芭蕉翁記念館や伊賀流忍者博物館があり、伊賀上野の観光地として利用されています。



城めぐりチャンネルより



伊賀上野市観光案内Map



伊賀鉄道車両



伊賀鉄道電車内



松尾芭蕉を祀る俳聖殿



伊賀上野城跡



藤堂様御国入行列附(版画)



# 48 松阪城

---続 100名城---  
2019.12.16



FB-039

いよいよ三重県です。三重巡り(名城2、続4、+和歌山・新宮城跡)は自家用車にしました。電車・バスの本数が少なく、特に山城ではその日に戻れないところがあります。松阪市を拠点(2泊)にして、廻りきれました。

築城は蒲生氏郷(安土城築城に  
関与)によるものです。

当初伊勢国12万3千石を与えられ松ヶ島に入城したが、伊勢湾に面した城下町に発展性はないと考え、現在地に移ったとのこと。建設には、松ヶ島の住人を強制的に移住させ、また旧領近江商人を呼び寄せ、商都松阪の礎を築いたとのこと。何と昔の人は豪傑・壮大なのか感心ばかりです。

お城の縄張は梯郭式平山城で、本丸を中心に渦巻き状に曲輪を巡らせた配置で、渦郭式と呼ばれている。

石垣は、「野面積み」を主体に隅部は「切込みはぎ」「算木積み(新宮城跡で紹介済)」という工法が使われている。

配置が渦郭式(マップ参照)であり、また高い石垣に囲まれてしまう箇所もありで、探索中迷うこと多々でした。本当に広いです。



松阪城跡の石碑



二ノ丸

隠居丸



本丸

# 152 津 城

---続 100名城---  
2019.12.16



津城跡は、内濠の一部と本丸曲輪が残るお城公園として整備されています。

江戸時代に築城の名手 藤堂高虎が建てた平城として有名です。戦後、藤堂高虎(今治城から転封)が輪郭式の近代城郭に大改修し、明治まで藤堂家の居城となった。

同じ藤堂家の伊賀上野城は、大坂城(豊臣家)に備えた戦いのための城に対し、津城は平時の居城として築城されたものです。



お城公園

(内堀のみ)

お城  
西公園

津市役所

津地方  
法務局

津城跡  
(お城公園)

模擬櫓

内堀

国道23号線

FB-041

## 津城のバッジ



「続日本100名城」・「三重県三名城」・「築城名人 藤堂高虎」

### 三重県三名城

- ・伊賀上野城
- ・松阪城
- ・津城



本丸と西の丸(石垣・内堀)



津城跡



模擬櫓



藤堂高虎公銅像



公園内広場(パノラマ撮影)



藤堂高虎公銅像

# 153 多気北畠氏城館

たげ きたばたけし じょうかん

---続 100名城---

2019.12.18



多気北畠氏城館は、霧山城[多気城]のある山一帯を指す。伊勢の戦国大名だった北畠氏の本拠地であり、伊勢と大和を結ぶ街道沿いに位置し、難攻不落の山城として有名であった。  
--- FB-043で紹介の田丸城築城もこの北畠氏です。



城館に着いたとき城跡らしきものはなく、有るのは北畠氏の神社・庭園・銅像ぐらいで不思議に思ったのですが、「美杉ふるさと史料館」でその訳が理解でき、右上に記した内容での通りでした。

城跡登城ですが、あいにくの雨とその対策なしでは危険と判断し断念しました。機会があればリベンジしたいです。

山麓には城館（北畠氏館跡）があり、山上の霧山城は峠に囲まれた詰めの城。霧山城を拠点に繁栄するも、織田信長の侵攻により開城、信長は次男の信雄を北畠氏に養子として送り込み、旧北畠一族を暗殺するという方法で北畠家を乗っ取った。遥か山上には土塁と堀切で守られた中世山城の遺構が良好に残っています。



一〇×モ --- [城址・城跡・城附] / [城跡]  
「じょうし」には、-城址・城跡・城附- の3パターンの漢字表記があり、更に -城跡- と書かれている場合もあります。[城址・城跡]についてはFB-021の明石城跡で記しています。



一〇×モ  
史跡と史蹟の違い  
(史跡): 戦後の制定  
(史蹟): 戦前の制定

史蹟: 霧山城址

白いカビのようなものがマダラに生えた不思議な石碑



北畠氏城館跡庭園

北畠氏城館ジオラマ

# 154 田丸城跡

---続 100名城---  
2019.12.18



本丸虎口

北の丸跡



FB-043

伊勢国司から戦国大名となった北畠氏により築城された。のち織田信長の伊勢侵攻により降伏、信長は次男信雄を北畠氏に養子として事実上北畠氏を乗っ取った。信雄は田丸城に3層の天守を建てた。そののち藤堂高虎(津藩主)を経て紀州徳川家の所領となる。

ここでも三重県内のお城全般に藤堂高虎時代があります。現在は、三の丸跡には中学校が建つも、二の丸・本丸はほぼそのまま遺構が残っています。この田丸城は「野面積み」の石垣で有名です。この野面積みの特徴としては、「野面積みは一見粗野であるが排水性に優れ意外に頑丈で年暦を経ると雅趣がある」だそうです。



天守台の正面  
(天守に登る石段が扇状になっている)



イルミネーションのライトアップ



昭和36年頃の田丸城跡



本丸天守閣の姿の覆いはイルミネーションのライトアップ用(冬限定)



残念ながら観られませんでした。

# 155 赤木城

---続 100名城---  
2019.12.17



屋敷地区

赤木城跡縄張



丸山の千枚田(赤木地区の日本の棚田百選)

赤木城は藤堂高虎が1589年頃に築いた紀州南端の総石垣造りの山城で、当地で発生した北山一揆の鎮圧拠点であった。その拠点として築かれた城ということもあり、こじんまりとしているが権威を見せつけるため石垣技術が目一杯投入されている。低い山の尾根上に曲輪を配置し、そこに野面積みの石垣や食い違い虎口などで各曲輪を防御した配置となっている。地図にあるように、本当に山奥です。陸の孤島、という言葉が思わず頭をよぎるくらいに。

## 一口メモ

「面白いことに、紀州の方言には敬語がありません。」と、司馬遼太郎はその著書『歴史と風土』で語っています。紀州は長いあいだ強力な統一勢力がなく(一種の部族国家)、熊野の神様を崇めつつ、部族の連合体で結束していました。特に熊野地方は反骨の土地柄であった。今でも「きつい」「エラそう」と定評(?)のある熊野・新宮地方(三重・和歌山県境)の方言ですが、やはり連想したくなるのは鯨漁。勇ましくも命がけの漁を生業としていたこの地の人々にとって、危なっかしい小さな舟の上で掛け合う言葉は短く明確なことこそ大事なのであり、そこでは余計な階級性や言い回しは無用の長物だったのかも知れません。戦国末期の紀州で一揆が頻発した背景には、そんな風土もあって、太閤検地が始まると、古くから奥熊野に割拠していた地侍たちは、これが気に入らず「北山一機」が勃発した一因とも思われます。因みに、藤堂高虎は後に「築城の名人」と言われる初期の作品です。

